

人推協だより ほっと・あい 第192号

法務省人権擁護局・全国人権擁護委員連合会主催
第40回全国中学生人権作文コンテスト 内閣総理大臣賞

みんなのヒーロー

宮城県仙台市立仙台青陵中等教育学校 3年
松山 陽奈 (まつやま はるな)

困っている人への「手伝います」という言葉。そして優しく見守ること。この二つの言葉と行動を心掛けることこそが優しい社会づくりへの第一歩だと思う。勇気がなくその言葉が出なかった私にそう思うきっかけを与えてくれたのはバスで見かけたおじさんだった。

私は毎朝バスに乗って通学している。そのバスは通勤ラッシュの時間帯で平日朝から晩まで働いてお疲れの様子のサラリーマンが多く乗っている。それが理由なのか、車内の雰囲気はどんよりとしていて少し怖いくらいに感じるほどだった。

そのバスがさらに怖さを感じさせる日が週に二日ある。火曜日と木曜日だ。その二日だけ手押し車と共に乗車するおばあさんがいる。手押し車を持っているだけでそれ以外は他のお年寄りとは何も変わらないはずなのに……。バス車内から遠目にバス停に並ぶそのおばあさんの姿を確認すると乗客の何人かが分かりやすいため息をつき、その瞬間雑音にあふれていた車内が凍りついたように静かになる。そのおばあさんは何も悪くない。ただ手押し車を持っているからか乗るときに他の人よりも少し時間がかかるだけだ。「手伝います」と誰かが声を掛ければすぐ解決するはずなのに、私を含めて誰もその一言が出てこない。なぜなら、乗客何人かが「乗らないでくれ」という無言の圧力を放つからだ。ため息、舌打ち、コツコツと靴で床を踏み鳴らす音全て意図的に聞こえるように出していて、極めつけは「関わりたくない」と訴える視線。なぜそのような態度をとる人がいるか理由は容易に想像できる。「なんでこんなラッシュの時間帯に乗るのか。こっちは仕事があって急いでいるんだ。」という自分勝手な考えからである。おばあさんがいつどこに行こうがそれは自由で他の人に制約される理由はない。「手伝います」と声を掛けようとしている人も中にはいるはずだが、無言の圧力に負けてしまっていた。そして乗客全員でおばあさんに圧をかけるような状況をつくりおばあさんはいつからか小声で「すいません」と言いながらバスに乗るようになっていた。

ある日、そんな暗い状況の中ヒーローが現れた。ヒーローはおじさんだった。

おじさんは「今日火曜日かぁ」といつものように暗い気持ちで座っていた私の隣の席についた。おばあさんの乗るバス停に近づくにつれ聞こえてくるため息を聞いて

愛荘町人権教育推進協議会

問 (事務局) 教育委員会生涯学習課内 (秦荘庁舎)
☎0749-37-8055 FAX0749-37-4192

「皆さんお疲れですね。」と私に話しかけ、おばあさんがバスに乗ろうとすると「おはようございます。手伝いますよ。」と声を掛けながら手押し車を軽々持ち上げて席を譲った。おばあさんは最初おじさんの行動に呆気に取られていたが、すぐに満面の笑みでお礼を言っていた。そんなおじさんの行動を間近で見た感想は「おじさんは強い。」だった。無言の圧力を物とせず、私がなかなかできなかったことをスマートにやってのけ、おばあさんを笑顔にしたおじさんはヒーローという言葉がピッタリだった。

私はそんなおじさんの行動に憧れて自分も自ら行動できるようにになりたいと思った。

その後おじさんがバスに乗ってくることはもうなかった。が、私はちゃんと行動すると決めていた。一部の乗客のイライラは気づかないフリをした。バスのドアが開くときとても緊張しておじさんみたいにできるか心配だった。でもやるしかないと自分に言い聞かせ、「手伝います」と声を掛けた。手押し車を乗せおばあさんに席を譲った、その後のおばあさんの笑顔とお礼は今でも心に残っている。

おじさんの行動はバスに乗る人たちを変えた。次の火曜日「よし」と意気込んでいたら、前に座っていた高校生に先を越されてしまった。その後手押し車をバスに乗せる担当とおばあさんを支えてバスに乗せる担当という役割分担が自然とできていった。さらにおばあさんが下車する際に運転手さんに「ありがとう」とお礼をするのでつられて他の人たちも運転手さんにお礼をするようになっていった。

おじさんは乗客全員に勇気をもって行動する強さを教えてくれた。おじさんに救われたおばあさんは「ありがとう」と言うことの大切さを教えてくれた。この出来事からバス車内は優しい思いやりがあふれる暖かい雰囲気になっていった。

私たちはできない事があるのが当たり前。でも、その人にしかできないことだってある。そして全ての人が自分らしく生きる権利を持っている。だから、自分が輝ける社会を自らつくっていく必要がある。そのためにはお互いの短所を補い合い助け合うこと、優しく見守ること、この二つが一番大切だと思う。

こうした思いやりを広げていくことで、多くの人を笑顔にすることが必ずできる。

一度だけ現れてバスに乗る人全員を笑顔にしたおじさんは、間違いなくみんなのヒーローだ。おじさんに偶然、出会えたことの感謝を忘れず、勇気が出ないときはおじさんのことを思い出して「強く」生きていきたい。



【作者の原文をそのまま掲載しています】

生活習慣病健診・肝炎ウイルス検診・ 特定健診(国民健康保険加入者)を行います!

生活習慣病健診

健診は自分のライフスタイルを映す鏡です。健診結果を踏まえ、しっかりと生活習慣を見直すためにも、職場、医療機関等で健診を受ける機会のない方は、ぜひこの機会に受けましょう。

18歳～39歳までの住民の方は受診票がなくとも受診していただけます。ご都合のよい会場へお越しください。

※40歳から74歳の方の健診については、健康保険の加入先にお問い合わせください。

持 ち 物：受診票・個人負担金 (500円)

内 容：身体計測、問診、血圧測定、血液検査、尿検査、内科診察等

肝炎ウイルス検診

肝炎ウイルスは、感染していても自覚症状がないことも多く、感染したまま放っておくと、肝硬変・肝がんへ進行する確率が高くなります。感染しているかどうかを早い段階に発見し、治療を開始することが大切です。

40歳以上で過去に肝炎ウイルスの検査を受けたことがない人は、ぜひこの機会に受診しましょう。検診を希望する人で案内が届いていない人は、健康推進課(保健センター)へご連絡ください。

対 象 者：昭和58年4月1日以前にお生まれで、過去に肝炎ウイルス検診を受けたことがない人

持 ち 物：受診票 (無料対象の方に送付しています)

個人負担金 (300円)

※受診票が送付されている方は無料です

検査方法：血液検査

日 程：＜受付時間＞ 生活習慣病健診・肝炎ウイルス検診 8：30～11：30 / 13：00～15：30
特定健診 9：30～11：30 / 13：00～15：30 受診票でご確認ください。

日 付	曜 日	場 所	日 付	曜 日	場 所
5月25日	水	愛知川 保健センター	6月2日	木	秦 荘 保健センター
5月26日	木		6月3日	金	
5月27日	金		6月6日	月	
5月29日	日		6月9日	木	
5月30日	月				
5月31日	火				

※住民税非課税世帯・生活保護世帯の人は特定健診・生活習慣病健診・肝炎ウイルス検診の自己負担金が無料になります。受診日1週間前までに朱肉を必要とする印鑑を持参の上、健康推進課(愛知川庁舎1階)に申請してください。

問 健康推進課(愛知川庁舎) ☎0749-42-4887

No.55

環境さわやか通信



あなたも“ひとしぼり”からエコライフをスタートしてみませんか？

水分ひとしぼり運動！

ごみの減量には、生ごみの“ひとしぼり”がたいへん効果的です。

また、“ひとしぼり”を行うことにより、台所やごみステーションの悪臭を軽減します。

そこで、“ひとしぼり運動”を皆さんにお願いします。

1世帯 1日50gの減量を!“ひとしぼり”が一番効果的

- 50g(大さじ3杯程度)減量すれば 愛荘町全体一年間で約150トンごみの削減
- 燃えるごみの40%は水分
- ごみの減量には生ごみの“ひとしぼり”が効果的!
- “ひとしぼり”を行うことは ごみの減量やごみ処理費の大きな節約
- 消費エネルギーの削減、地球温暖化防止の貢献

問 くらし安全環境課(愛知川庁舎) ☎0749-42-7699